

- ・DC千葉資源佐藤泰弘専務取締役に聞く、組織効率化し需要対応、新たな骨材資源開拓も  
デイ・シイの骨材生産会社として4月1日付で発足したDC千葉資源(本社・千葉県君津市、田中光一社長)。100%子会社の三盟産業(存続会社)と三栄開発(解散会社)が合併して名称変更し、三盟産業の寺沢と里見、三栄開発の富津(旧湊工場)、デイ・シイから生産委託を受けた吉野と市原の5事業所体制で運営する。年間約200万トンの山砂(細骨材)を生産し、販売、輸送を担当する親会社の資源事業本部と連携して神奈川、千葉、東京等の需要家への安定供給に努める。佐藤泰弘専務取締役に方針や各事業所の概況を聞いた。

- ・高齢化進む運搬業界 五輪、運転手不足も  
首都圏で骨材を運搬する海送・陸送業者の高齢化や人材不足が深刻だ。現在、需要が低調に推移していることで、供給に支障はでてないが、来年また来年度以降の五輪関連需要による繁忙期の運転手不足を懸念する声は多い。首都圏の骨材運搬業者を中心に取材した。

- ・棚倉英雄千葉県土砂事業協組連、中部山砂事業協組理事長に聞く、1月に日砂協復帰  
今年1月に日本砂利協会に復帰した千葉県土砂事業協同組合連合会。千葉県の山砂採取量は全国最大規模であり、同連合会は主要生産地の君津、富津等の山砂業者で構成する千葉県中部山砂事業協組、市原等の千葉土砂採取業協組、佐原等の佐原地区砂採取協組など県内7協組で組織する。連合会および中部協組の理事長を務める棚倉英雄氏に日本砂利協会復帰、山砂(細骨材)の生産や輸送の現況を聞いた。

- ・日砕協「第12次労働災害削減運動方針」、死亡災害15年度6件、災害率半減目指す  
日本砕石協会(西村耕一会長)はこのほど16～18年度3カ年の「第12次労働災害削減運動方針」を発表した。目標として死亡災害「ゼロ」、災害率について09～14年度実績平均値21・07(年間平均災害発生件数44件、死亡者数4・67)からの半減を掲げた。協会会員(経営者含まず)の死亡災害(死亡者数)は15歴年で5件(前年比3件減)、15年度で速報値6件(前年度比1件減)発生。作業経験10年未満の労働者の災害が多発しており対策が急務とみており類似災害防止対策として15年度に作成した「採石業における現場責任者(採石のための掘削作業主任者および職長)能力向上テキスト」を活用し、支部や会社で安全教育を実施するとともに講習を受けた責任者が現場にあまねく安全活動を促すことが不可欠とした。